2021・1号

直江の津

◉上越なおえつ信金倶楽部◉

47号

2021・1-2021・6

◉特集◉

無印良品が考える エリアリノベーションに 巻き込まれるか、 巻き込むか、

―無印良品 直江津コミュニティマネージャー 古谷信人さんに聞きました―

巻頭エッセイ◉わたしの直江津

すきな路すきな時

頸城の空間を駆ける 国府―春日山―府中―直江津へ

越後府中と春日山城

―名立から考えた府中の都市空間―

すきな路すきな時





ひぐちキミヨさん
昭和三三年、東京生まれ。
ＣＭプロダクションを経てイラストレーター。
縁あって上越市に移住、このまちの魅力の虜になり、以来、上越の今昔取り混ぜてイラストを描くことになった。ことに祇園祭のイラストは、まさに「きみよワールド」。



ロングインタビュー・令和2年11月9日　聞き手・北越出版　佐藤

―無印良品 直江津コミュニティマネージャー古谷信人（ふるたにのぶと）さんに聞きました―

無印良品が考えるエリアリノベーションに巻き込まれるか、巻き込むか、

リノベーションとは本来、建築物を改修して機能を向上させ、建物の付加価値を高める意味であるが、地域（エリア）を従来型の画一的な都市計画ではなく、地域全体を見通したデザインによる改修（リノベーション）を意味する〝エリアリノベーション〟という考えが提案されるようになった。

―古谷さんは何年のお生まれですか？

古谷　昭和五四（一九七九）年の生まれです。四一歳になりました。

―下見と言いますか、こちらに来られるようになったのはいつからですか。

古谷　直江津プロジェクトに配属になったのが去年の六月で、住み始めたのは一一月ぐらいからです。それまでは月・火曜日は東京の本社、水～金曜日は直江津、土・日曜日は京都の自宅に帰る暮らしをしていました。

―頸城自動車さんの講演会で、私がお話した時にも（お忍びで）いらっしゃった？　直江津の歴史は難しくて…、面倒くさいという話…。

古谷　はい、面倒くささが…（笑）

―こちらに来られた時の第一印象はいかがでしたか。

古谷　上越妙高駅に降りた時、道路がすごく茶色くて。融雪剤かサビなのかわからないのですが道が茶色で寂しいような、寂れているようなイメージでした。信号も雪国では普通だと思うのですがタテ向きで。

―皆さん、冬になると道路から水が出るのが不思議みたいですね。

古谷　札幌にいたことがあるのですが、ロードヒーティングといって道路自体が温まるシステムだったので、水が出るというのは初めてでした。

―上越での生活が始まって、いかがでしたか。

古谷　京都へ帰るとき、上越妙高へ行く電車の本数も少ないし、交通が不便だなと感じていましたが、まあバスなどの時間に合せれば、それほど不便ではないかなぁーと感じつつもありました。毎週通っていた時は、レンタカーを借りて地域を回っていましたが、上越市で暮らすことになり、自宅から車を持ってきたら、すごく快適な暮らしができています。逆にバスや電車の時間に合わせて暮らさなくていいですし便利かなと…。コンビニまで一キロ離れていても車ならすぐです。徒歩だと遠いと感じますが、車だとスーパーや飲食店もすぐなので、生活に関するお店は近い。人との繋がりも車があることによって近くなりますね。

　都会だと隣の家の人の顔も分かりませんし、近所に知人もいなくて結局、知り合いは職場の人や家族だけとい

うことが多いですね。こちらの人は「その地区なら、あの人知ってるよ」という感じに、知り合いがいろいろなところにいらっしゃる。距離的には遠いけれど、車で行けば、すぐに会える所にみなさん知り合いをお持ちで、その生活を楽しまれているなという感じがしてきました。

ですから最初は「地域の役に立つ」という感じ（目的）で配属されたので、「役に立つにはどうしたらいいのか」を考えていましたが、みなさん特に困っていらっしゃらない。そして、ご飯も美味しいし。

―「ご飯がおいしい」という話は、（無印良品の）金井会長さんもおっしゃっていましたね。

古谷　車さえあれば好きな人と会えるし、電車とかバスの時間にも縛られず、自分の好きな所に好きな時に行けるというのがすごく便利だなと、感じてきました。

―ところが高齢になって、車がなくなるととたんに不便になりますね。

古谷　車に乗れるか、乗れないかで生活スタイルも行動範囲ももものすごく変わってくると思います。車に乗れる間は何一つ不便がない地域だけれど、車に乗れないと急に不便になる地域だなと思いました。


上越市民になった古谷さん

なぜ「直江津」なのか？

―先日、無印良品 直江津の林店長さんに別の仕事でインタビューしたときは、店舗展開についてお聞きして、出店理由などはお聞きしなかったのですが、古谷さんはコミュニティマネージャーという肩書を持っていらっしゃるので、地域のことについてお聞きしていきます。まず、「直江津に来て、こんなところに出店してどうなるんだろう」とは思いませんでしたか？

古谷　（無印良品では）地域の人口や駅からの距離、ショッピングセンターの規模や駐車台数など（社内での基準があり）、それに基づいて出店を検討しますが、今回のエルマールへの出店というのは、もちろんそうした調査のうえ、これからどの地域でも起きてくるであろう駅前の百貨店やショッピングセンターの閉店、中心市街地の衰退化ということに対して、自分たちは何ができるか、というチャレンジのお店でもあります。

これは全くやったこともないプロジェクトですし、しかも世界最大級といわれるような面積のお店を作るのも初めてです。無印良品は約七〇〇〇品目を展開していますが、五〇〇〇㎡も使わなくても全部表現できます。ですから商品以外の空白をどのように埋めて、地域の真ん中〈くらしの真ん中になる〉というところを担えるお店にしていくかというところもチャレンジですし、この地域に出店をチャレンジすることで、今後は「日本全国の同じような課題を抱えている地域にも出店できるのかな」ということを試す意味合いもあっての出店です。

―もともとは、ここは直江津の郊外でした。三三年前、これからは郊外型ショッピングセンターの時代だということでエルマールができたのですが、バスで来ると楽だということで、当時は高田地区から来られる方も多かった。これは私見ですが、関川改修で移転してこられた人たちなども含めて次第に住宅街化され、図らずも中心市街地化した。それが逆にイトーヨーカドーさんを居辛くさせてしまったのではないか。郊外型のままだったら撤退はなかったかもしれませんし、郊外型でのエルマールの空白の一年は無理だったかもしれないと思っています。

「地域に巻き込まれる」とは

―前置きが長くなりましたが、そこに思いがけず「ええ！」というようなお店が出店したので仰天しました。何か出店の意図の手掛かりはないかと、金井会長さんの『MUJI が生まれる「思考」と「言葉」』を読ませていただいたのですが、むしろオープニングでの金井会長さんの「地域に巻き込まれる」という言葉を読み解いていくと面白いことになるのかなと思いました。コミュニティマネージャーとしての古谷さんは、どのような活動をされようとしているのですか。

古谷　地域社会の役に立つようなことを考えつつも、無印良品は小売業なので、商いを通してどう地域社会に役に立つかを考えています。なるべく余計なおせっかいをしないといいますか、役に立とう！　役に立つ！　と言って地域の方のじゃまをしたり、障害になってはいけないと思いますので、そこを考えながら地域のために役に立つような小売業のありかたを探っているところです。

―上越市地域活動支援事業に採択されたプロジェクト、そこから無印良品さんの立ち位置や全体像が見えてくるのではないかなと思って、プランを読ませていただいたのですが、なかなか難しい。

古谷　「直江津アートプロジェクト　くらしの美術館構想」ですね。アートを作るというのは、絵を描いたり美術館を作るという意味だけではなく、表現もアートだと思うので、どういう風に表現するか、それ自体が作品（アート）なのかもしれません。ですからイベントもアートであり、その制作過程自体をプロジェクトの目的にしています。

「表現する」ということを目的に地域の方を巻き込んで、例えば直江津地区を調べて良いところや悪いところを再発見する。それにより地域の方の意識を上げるといいますか、地域に対する愛着、思いをもっともっと巻き上げる。そういう体験、出来事を重視しているプロジェクトです。

―自分の住んでいる地域は知っているようで知らないことばかりなので、そういうことを掘り起こしてみるきっかけになりそうですが、「こんなに良い物があるのに、このまちの人は何もしていないじゃないか」という言い方をしてはいけない。みんなでやっていくうちに、「これもあるね、こういうのもあるねという発見が大事なんだ」とおっしゃる方がいます。まさにそうだと思います。

古谷　はい。やはり直江津の方は裏表がないというか、ストレートにダメ、イイ。もう、良い悪いがはっきりしているので…。

―それは女性の方がはっきりしていますね。

古谷　（笑）意見を聞くと、あ、これはダメなのか、こ



11月23日に行われた四十物祭りに出店
無印良品流の四十物が並ぶ

れはいいのかとすぐに分かるので。

―男は段取りばかりして進みませんが、これは女性特有のものでしょうか「まず、やってみよう」という気質がありますね。

古谷　（笑）。

―今日は、お話をうかがいながら、無印良品さんがこのまちで何をしたいのか、何をしようとしているのかを考え、具体的に「地域に巻き込まれる」という意味を探っていきます。

古谷　直江津に世界最大級の無印良品があるということではなく、自分たちは、このまち、この地域での生活を楽しんでもらう、誇りを持ってもらう。免許を返した後も不便なく暮らしていただけるような役割も担えたらいいなと思います。

　高校を卒業すると東京へ行って、帰ってこない人も多いとうかがっています。そこにも自分たちがお手伝いできないかなと。小学校でも地域の歴史を知る授業をやっておられると思いますが、そういうこともお手伝いできたらなと思います。高校卒業するまでに「直江津にはこういう誇れるものがある」という、戻ってくる理由を見つけられれば、しばらく東京で勤めた後、戻って来たいと思ってもらえるのではないか。少しでもそのような手助けができたらと思います。

　とはいえ小売業なので、最終目的は無印良品の商品を買っていただくということではあります。ですが、地域の人口が減ると売り上げも減りますから、人口を維持するために地域の魅力を発信していかないと。

　自分たちだけが儲かるというより、地域が活性化していかないと自分たちも儲からないですから。自分たちのことだけを考えるのだけでなく、地域全体を見ることによって、地域にとどまる人が増えてくる。直江津での滞在時間も増えて、利便性があがる。そういうことに無印良品としても一緒になっていけば、まち全体がもっと活性化していくと思いますし、人口が流出するばかりではなく、戻って来てもらえるのではないかなと思います。ただ「無印良品、無印良品」というのではなく、地域と一緒にやっていけたらなということをずっと考えています。

―小中学校の地域学習などで、子どもたちも「このまちは良い所だな」と思いつつも、ここで住めないという現実があります。将来は外へ出なくてもという時代に変わったらいいとなあ思いますが、古谷さんたちがやっていらっしゃることが、その力になるのかもしれませんね。

　ただ大学に行って帰ってこないという人たちだけでなく、ここから一歩も出たことがないという人たちもいますよね。その人たちの中には今の状態、この地域が一番いいという方もおられますからね。

古谷　不便というか、うーん、みなさん困ってもいらっ

しゃらないんですよね。だから免許返納したとたん、いきなり不便がくると思うのですが。

地域をリノベーションする

―もう一つ、無印良品さんの「エリアリノベーション」という言葉が気になっているのですが、近くで目に見える形としては、善光寺門前の「ぱてぃお大門 蔵楽庭」。あそこは、いくつかの土蔵を広場を中心にして向きを変えて、商業施設にしたのですが、これは観光が目的ではなかったらしい。ところができたら観光客が集まりだした。門前通りの蕎麦屋さんで、客も来ないし商売をやめようかと思案していたところ、後継ぎが〈大門〉の賑わいを見て、こだわりの蕎麦屋に転換したら行列のできる店になった。数年で門前通りは見違えるように変わりました。これが見える形でのリノベーションで、目に見えない形でのリノベーションというのは、先ほどおっしゃった意識改革かなと思うのですが、いかがですか。

古谷　目に見えるものでいえば、オープン前から妄想していることなのですが、直江津の駅が使いやすく、乗降客が増え、もしかしたら蒸気機関車が来て盛り上がり、週一回マルシェ（市）が開かれたり。駐車場に車を置いてエルマールやうみがたりまで歩く。商店街が活気づくというようなことを描いてはいるのですが。

―うみがたりができたとき、「変わったよそ者が来て、道筋の空き家を利用してお土産屋さん、食べ物屋さんを作るとまちが変わっていくよ」とおっしゃった人がいます。なかなか、その〈変わったよそ者〉が来ません。考え方としてはいいのですが、このまちの欠点といいますか、点と点をつなぐには少し間延びしているかなという気がします。例えば中央商店街と駅前商店街の真中が抜けていることも大きな問題だろうと思います。芭蕉の句碑を新たに建てた時、松尾芭蕉が「奥の細道」で来たのが七夕ですので、七夕飾りを駅前までつなげて、句会をやったらどうかという計画もあったのですが、真ん中が抜けることで意思疎通ができない。市の文化財になったライオン像のある館も…。


リノベーションする長野善光寺界隈

古谷　ちょっと距離がありますね。

―うみがたりも含めて回遊するには間延びしていますね。直江津ショッピングセンターの駐車場を見ると新潟ナンバーの車が圧倒的に多いんですよね。その方たちは無印良品さん以外、どこにも寄らずに帰るというのがほとんどですね。

古谷　恐らく上越、長岡ナンバーの方は熱しやすく冷めやすいと思うんです。一方、新潟ナンバーの方はオープン当初から一定数、来てくださっています。そこを大事にしつつ上越、長岡ナンバーの方を増やしていかなくて

はいけないと思っています。

冷めやすいのであれば熱せればいいと思うので、「防災のイベント」（海浜公園と直江津屋台会館を会場に二〇二〇年一〇月三一～一一月一日、アウトドア用品を使った災害への備えや避難所体験などを行ったイベント）のように、毎月、何か発信することができれば、来館目的もできるのかなと。

ですが、自分たちばかりが熱し続けていても、恐らく「また無印良品か」と飽きに繋がると思うので、いかに地域の方を巻き込めるかをずっと考えています。

巻き込む・巻き込まれる地域力

―オープンの時、無印良品の金井会長が、「地域の方と一緒になって、われわれも巻き込まれながら、地方の素晴らしさを一緒に作っていきたい」とおっしゃったのですが、この地域に、巻き込まれる力が欠けているのか、巻き込まれる力がなくなるから地域が衰退するのか、地域が衰退するから巻き込まれる力が無くなるのか、我々の側の「巻き込み力・巻き込まれ力」という自問自答が…。



いつものもしもCARAVAN
遊びながら「いつものもしもという暮らしの備え」を学ぶ（写真・頸城自動車提供）

古谷　ですが、こちらの女性には巻き込む力はあると思うんです（笑）。私も女性陣には魅力のある方が多くて巻き込まれるというか。ですが、男性陣が弱いのかなと。

―「やったってしょうがない」という。

古谷　そうそう、そうです。そういう方が結構いらっしゃいますね。

―叱られるかも知れませんが、どうも直江津の男衆には「そんなことやったってさ、このとおりのまちだねかね」と言う人が多い。無印良品さんにとっては未知のまちですし、出店した中では異例のまちということですが、〈よそ者〉としてどうでしょうか。

古谷　自分たちがあまり目立たない方がいいとは思っています。目立ちすぎると、みなさんが考えるきっかけ、行動をおこすきっかけにならないと思うので、まず自分たちが行動し、そこを追いかけてくれる人が一人でもいれば成功かなと思っています。

―出すぎると、さきほどの「また無印良品がやってんのか」ってなりますもんね。

古谷　そうですね。防災のイベントの時も、できるだけ自分たちだけでやらず地域の人たちを巻き込もうと。有名なメーカーや著名人を東京から連れてくることもできますが、そうではなく地域で頑張っていらしゃる方をお呼びし、地域で愛されているお店と一緒にやることで「あそこのお店が出ている」ということで愛着（親近感）もわいてくると思います。そうすれば、新潟ナンバーの方も直江津にはこういうお店があるんだ、ということを知っていただけるのではないかなと思います。

ぽつぽつとはいらっしゃるのですが、〝一人が頑張っ

ていても〃という、みんなもっと集まってやってくれたらという感じもありますね。

―これも叱られるでしょうが、今まで頑張ってきた皆さんが、若い人と喧嘩別れではなく、譲ってもいいよという度量みたいなのがもう少しあればいいなと…。

古谷　早く手放すではないけれど代替わりがあって…、そうすればもっと活性化して柔軟な意見ができたりしたのではないかなと思うのですが、仕切ってくださる方がいるとありがたい反面、意見が出しにくいというのは、どこにもありますね。

―そういうのを外の目線でやんわりと…。オレはそろそろ、引っ込んだ方がいいのではないかなと思うきっかけにもなる…。

古谷　若い人達に任せて、なにかトラブルがあった時に出てきてくれるというのはありがたいですが、次世代に任せてみるという選択も必要なのかなと思います。

一〇〇年後の街の風景を描いておく

―「肝心なことは目に見えない」という『星の王子さま』の言葉と「一〇〇年後の街の風景を描く」という言葉が、アートプロジェクトの中にあったと思います。これは、今やっていることを（自分の手で）一〇〇年後までできませんし、一〇〇年後の景色は、若い人たちしか見ることができないですが、それでも「今やっておかなければいけない」ことなんだという意味で捉えていいのですか。

古谷　それをやっておかないと。一〇〇年後には自分たちは生きていないけれど、いつかは石油がなくなるとか太陽の熱が届かなくなるということを始めとする環境問題について考えなければいけません。自分たちの理想とする一〇〇年後を考えることによって、意識する小さなきっかけみたいなのができれば、一〇〇年後が描けるのかなという思いです。

　その頃、自分たちは生きていないし、こどもも一〇〇年後なら生きていないかもしれないけど、〃まぁいいか〃ではなくて、一〇〇年後に描く直江津というまちがすごく便利になって、なに不自由なくみんなが暮らしているということを描けたら、それをめがけて子どもに託す。そのためには、ちょっと遠くのことを描いてみる。五〇年後をどのように描けば、ゴールの一〇〇年後につながるか。五〇年後がそうなら、手前の一〇年後はこうしておかなければならない、ということを考えることになる。

―一〇年後のことを考えるとき、一〇〇年後のことを考えておく。

古谷　一〇年たったら終わりましたではいけない。先を描かないと、言い換えればゴールがみえないと、一〇年後なにをしているのかよく分らなくなってしまいますから…。

―そうすると、無印良品さんがここに来たということは、とてつもないことなんですね。

古谷　そうなんですかね（笑）

―そのへんが少し見えただけでも今日お話を聞かせていただいた甲斐がありました。

　こういうプロジェクトは、他の地域でもされているのですか？

古谷　直江津の店舗のように地方に大型店を出店するプロジェクトは今回初めてですが、これから出てくると思います。大きなお店なのか、小さなお店をつくるのか分かりませんが、私達が「大戦略」と呼んでいる会社の戦

略（理念）が、〈役に立つ〉（生活者の役に立つこと、社会の役に立つこと）なので、役に立っていかなくてはいけない。

その地域にとって大きなお店を出すことが役に立つことであれば、それをやると思いますし、一つの地域に小さなお店を何店舗も出すことがその地域にとって正解なら、それをやるかもしれませんし、お店がなくても移動販売バスで回るのが正解な地域もあるかもしれませんし。

―ＭＵＪＩｔｏ Ｇｏバスはどんな感じですか？

古谷　天候や曜日で全く売れない時もありますし、売れる時もあります。でも売り上げだけではなく、中山間地域にお住いの方に買い物を楽しむことを提供したい。自分の子どもにメモを渡して買ってきてもらう。頼んだ物が届く。それはそれで生活として問題がないと思いますが、決まった物を買ってきてもらうのではなくて、自分で選んで自分で買いたいというのがありますよね。

バスは無印良品の七〇〇〇アイテムのうち三〇〇アイテムしか乗せていませんが、買うものを決めずに、来てもらって、その中から選ぶという楽しみがあってうれしいという言葉をいただいたりしますね。

―買い物ってそういう楽しみもありますね。

古谷　自分で見て、触って、納得して買うというのが喜ばれているのかな。

―バスに乗せて連れてくるというのはないですか。

古谷　それもあると思います。

―長野のスーパーで買い物のお客さんを乗せてくるバスがあるらしいです。なおえつ良品食堂でお昼を食べて、買い物をして帰るという。それも考え方ではないかなと思います。

古谷　そうですね。自分たちも中山間地に住んでいる人たちを連れてきて、お客さんにはお買い物を楽しんでいただき、同時に山の商品を積んできて、まちの人に販売する。お客さんを送り届ける時には、まちの商品を中山間地に持っていくというようなことができれば面白いと思います。人と物、せっかく頸城自動車さんもいらっしゃるので、そういう良いやりとりができたらいいなと、そんな妄想をしています。ハブというか、バスセンターがあるのでそこをうまく活用できたらいいなとも思います。

―金井会長さんは、「高速バスに魚積んで東京へ行ったらどうか」というお話をされていましたが、そういう突拍子もない発想が必要ですね。無印良品さんを呼んで来た頸城自動車の山田社長さんの発想も突拍子もないことだと思いますね（笑い）。

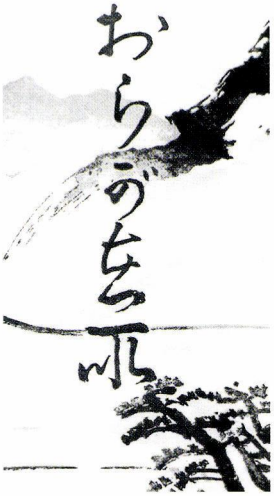
お聞きしてきた全体を通して、地球環境やコミュニティに対して良いインパクトを与える「ソーシャルグッド」ということですね。そのためにはお互いに積極的に「巻き込み・巻き込まれる」力が必要ですね。

古谷　そうだと思いますね。

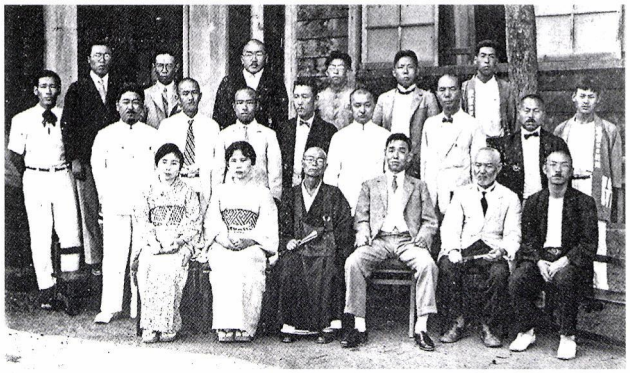
―ありがとうございました。

わずか一時間半だったが、古谷さんの私たちの地域への並々ならぬ思いをひしひしと感じるインタビューだった。

最近、古谷さんは上越市に住民票を移したということです。



東頸城郡郷土座談会
昭和五年八月一〇日
於・東頸城郡
下保倉小学校



■出席者
小見武司　安塚村助役
市川俊雄　安塚小学校長
岩崎英子　小黒村専教寺住職夫人
秋山悟庵　下保倉村顕聖寺住職
中島吉太郎　安塚自動車株式会社主任
相沢貞治　下保倉村消防組頭・託児所主任
中條豊治　保倉村村議
山田　保　下保倉小学校長代理
岩崎啓次郎　保倉小学校長代理
村松正治　下保倉村村長
竹村謙治　東頸城郡農会技手
村松貞子　下保倉村長夫人
丸田述雄　下保倉村医師
竹内恒哉　下保倉村勧業主任
渡辺記者　田中記者　本社側高田通信所主任
本山　浦川原専売所主
仙田安塚通信員

「おらが在所」は、昭和五年に「東京日々新聞」（毎日新聞）高田通信所が、一市三郡の名士の座談会を開催し「新潟版」に連載、上越座談会集刊行会が一冊にまとめたものである。題字は史跡探訪のために訪れていた徳富蘇峰。八〇年も前の座談会であるが、今も変わらぬ問題提起と示唆に富んだ内容である。

旧漢字・旧かなは改め、基本的人権にかかわる表現は時代背景を考慮してそのままとした。

上越線の影響如何

渡辺　本日はお暑いところ御出席下さいまして光栄の至りに存じます。本日の座談会は当地方の名所旧跡名物その他いわゆる「わしが国さ」の誇り得るものとして天下に宣伝すべき事柄につき御遠慮ないお話を承りたいと思います。――先ず当面の大問題と致しまして上越線開通に伴う当地方の影響という様な事について皆さまのお説を拝聴したいと思います――村長さん、いかがですか。

村松（村長）　直接影響としましては高田、直江津を中心に受ける打撃の余波を蒙るだけではないかと思います。しかし将来は由々しき大問題です、こちらの方は直江津、高田方面の影響を受けていろいろに動くのですから、それをつなぐ交通が不便だということは、私達には非常な不利を招くこととなります。東頸城の東部は上越線の開通によって非常に便利になるのですからね。――高田、直江津の人達がその点に着眼せぬのを歯がゆく思います。

相沢　私は非常な影響が有ると思うのです。地勢上東頸城は二分され、今でも一方は魚沼方面、一方は頸城方面にと分かれています、ある論者にいたっては二分説まで唱えているくらいです。わたしも内心これを余儀なくされるのではないかと心配しているのです。中島さんの方ではもう精細な調査も出来ていると思いますが、昨今すでに頸城鉄道には大分影響があるそうで、商人などの話を聞いてみますと、もう二分されつつある状態にあるそうで、この上、上越線でも出来たら、なお一層悲観すべき状態に陥りはせぬかと思うのです。

これは農業を始め、その地の産業方面始めとして交通上に現実に現れるもので、商人が心配しているだけでもたいしたものだと思います。これが対策としましては、

人為的に、まず第一に頸城鉄道を向うへ連絡させる事です。営利会社に対して強いるのはどうかと思いますが、郡民としましては自動車で連絡されるか、鉄道で連絡されるか何れによるとしても、この方面の開発に全力を注がねばならぬと思います。

中島　今の鉄道のお話ですが、現在はどこの私設鉄道も自動車に圧迫され苦境に立っております。私共は幸いに大正三年来、出来るだけ経費を節減して経営しておりますのでさほど影響はうけておりません。それに自動車との対抗は、三〇マイルくらいまでで止まりです。本郡東部との連絡は春先から松代自動車会社と交渉して自動車道路を利用して連絡をとっていますが、どうも面白くないようです。幹線道路を大きな自動車が走るようになったら、鉄道を延長しなくても交通上の救済は優に出来るのですからね。それに困るのは雪で、正味の運転期間は四月から一二月の半ばまでわずか八ヶ月余り。松代へ行くと半年は駄目で、五月から一一月までしか運転出来ない、客もその季節にはあまり動かず、昨年、雪の降らぬ間動かしてみたが毎月欠損続きだったそうで、私共の方は辛うじて一杯に行ったと言う有様です。まあこちらの客付季節によって動くというわけで、細かくいうなら四、五月にはまたずっと増えて、九月にはそろそろ落ちかかり、一〇月一一月になるともうずっと減ってしまうのです。貨物の方は米を除いたらあとはほとんど問題になりません。

　上越線開通によるこの郡の人の動きですが、これは松代方面の人は当然十日町、安田へ出て、室野がまあこっちへ向く一番遠い所となるでしょう。妙な事に貨物の動きは、（車が）現在二〇何台ある内、一台が十日町、一台が安田へ向かうだけで、他は全部直江津へ行きます。そこで上越線問題ですが、旅客は少しくらいの遠近は問題にしないと思います。ただ時間の関係と、乗り換えのないのを考えますからね。上越線が出来てここから東京へ行くとしたら、黒井へ出て直江津を廻って行くのと、上越線を通るのとは、潟町と柿崎の距離くらい短縮されるだけだと思います。ですから郡全体から見たら、峠の向うの人は上越線へ行くでしょう。こっちの人は変りますまい。

渡辺　頸城鉄道を向うへ延長なさる計画でもおありですか。

中島　私鉄の間は望みありません。自動車としても困難でしょう。何しろこんな不景気時代ですし、どちらにしても商売にはなりませんで、結局、上越線の開通による交通上の影響としましたら、峠を境に大島あたりまでの人がこちらへ来ますか……。それからこちらは少しも変わらぬと思います。ここの人が向うへ廻るのは大変めんどうで、行く気遣いはなし、まず大島あたりの人が一思案するといったわけです。

　自動車の方は連絡さえよくしたなら、どちらへ出ようとお客の自由ですが、問題は自動車道路です。

村松　郡町村長会が主となって、県当局に対し促進運動をやっています。

中島　地方民の熱と政府の意見とによって定まるのでしょうからね。

村松　町村長会が請願する事になったようでした。県庁の方は町村長会で決議した上、内務部長の所へ代表者が行って陳情したところ、各町村一致してやったらいいと言っていたそうです。しかし世間では余り注意していないようですね。一致して政府に要望するという機運に乗って来ていないようです。

中島　結局、鉄道による連絡より自動車によるほかないでしょう。それにはどうしても道路が先決問題です。現在の大型バスは一方が大島まで、一方が安塚までですからもうひと息です。それから向うは大型のは通りませんから、小さいのを造ってみたらと考えています。

本山　商業方面からみて今後はますます柏崎、長岡の者が入り込んで来ると思います。松代を通じて入って来るでしょう。松代から来る品物は汽車で来るのと比べると、品物によっては一個について八銭も十銭も安い事があります。そして、新しい珍しいものが高田で買うより一割も安く手に入るのです。米などは上越線が出来たら大島の方のは、全部向うへ出てしまいますよ。

村松　東頸城の文化は完全に東部が中心になる心配があります。

渡辺　安塚の方は如何ですか。

小見　安塚としたら大した影響はありません。郡全体からみてもさほどの事はないと考えます。こちらの人々は主に農業で、商工業として営業収益税を納めるものは八〇人くらいしかないのですから。比較的不便になると思うのは西部の人で、七ヶ村くらいはちょっと困るでしょう。東部の人は便利のいい向うへ出るから結局いくらか交通がさびれ。自然、自動車・汽車が振るわなくなるでしょうから、なお一層不便が加わって来るといったわけになりますからね。

渡辺　宗教上には何も影響はございませんでしょうね。

岩崎　その辺の事は変わりないと思います。

秋山　影響などございません。

酒屋者の死活問題

渡辺　では、この問題はこのくらいと致しまして、次は労働問題と言いましょうか、例の有名な酒男を中心にした話を承りたいと存じます。

村松　これは昔から酒男とは言わないのです。酒屋者〈サカヤモン〉と言うんです。そのモンという所が出稼ぎ者にのみ感じられる情緒です。酒造出稼ぎ人じゃ全く情緒がありません。

　その酒屋者の話に入る前に、これを機会に安塚その他が連合して作った職業紹介所について、私ども下保倉村が連合から脱退した事について一寸お話して置きますが、これは感情とかその他の理由があるわけでなく、ぜひとも村として独立した紹介所がなくてはならないというのに外ならないので、実際に、私ども村から出ている千円も千五百円も貰っている優秀な杜氏が、去年どうした事か失業してしまったのです。東頸城の出稼ぎ人の重要なこの杜氏の失業問題は実に由々しき問題で、その優秀な杜氏が首になったばかりに百五〇円ないし二百円位とっている酒男も、それに伴って失業するというわけで、私どもは、どうしても対策を講じなければならないので、ついに独立した職業紹介所をつくったわけで、安塚にも出来るし、ここにも出来るという事になるのです。

　というのは酒屋者もそうですが、女工などに至っても優秀な者はともかく、技術その他、比較的成績の悪いものは現在どんどんお払い箱になるありさまで、この対策は焦眉の急だと思うのです。どうしても職業紹介所で失業を食い止め、各地へ宣伝紹介に努めて悲惨な農村の失業を救いたいと思うに外ならないわけで、松代に早くから作った紹介所が非常に好成績だそうで、相次いでここにも安塚にも出来ると言ったわけなのです。松代村の方は非常に円滑に行っているそうで、こちらでも、どうにかして職を見つけて旅へ出さなければならないのです。

市川　最近の青年の傾向として酒屋者の方へ進まず、染物工場とかその他の職業に走り、名物の酒男がだんだん減って行く様子はないでしょうか。

相澤　紹介所は村単位に作り、将来は全部の紹介所が相提携してやったら、きっと好成績を収め得ると思うから、下保倉でも作ったわけです。どうしても紹介の仕事は積極的に出なければならないのですから、村単位で作り村の者のためというわけで、大活躍を試み、地方発展策を講じなければならないと思うのです。歴史ある当郡の杜氏の勢力範囲を関西その他、他国の者に侵され、あまつさえ越後の杜氏が排斥されているのを気づかず安閑としているのは、とにかく当郡にとっては大損害になるのですからね。

村松　東頸城の杜氏の失業の裏面には、猛烈な丹波杜氏の進出があるのです。その理由は丹波杜氏が半年くらいの長い間に講習会を受け、完全な技術手腕をもって進出してくるのに対し、東頸城の酒造講習会と言うと、たった三日です。今年は是非一週間頼んでとみたが、やっぱり三日間です。三日の講習をうけた者と半年もの講習を受けた者とを対抗させようと言うんですから無理ですよ。

小見　まったくその点からいったら、失業するのも無理がありません。そこで今お話のあった職業紹介所問題が重要性を帯びてくるのです。紹介所は各村ごとに建てれば一番いいですが、一つは経済が付きまとうので困るのですね。完全なものを作るにはどうしても二千円は要るでしょう。松代村でさえ建物を別に一千円要るそうですから。で、安塚のみでなく旭、保倉などという人口三〇〇〇くらいの所が併合してやればいいと思ったのです。

それから今の講習会はどうしても長期にわたり有効にやって貰わなければなりません、当地方五ヶ村支部が二七日から五日間にわたって酒造講習会を開くというので一七〇円の予算まで出したところ、講師の都合が悪いというので三日間にされてしまいました、しかし来年は是非長期講習会をやる考えでいます、講習会も中頸城では七〇〇、八〇〇と出るのに、ここは四、五〇〇人がせいぜいなのです、これもなるべくたくさん出るようにしたいものです。

市川　越後酒男の失業する理由は、技術上からですか、それとも宣伝が悪いためでしょうか。

村松　技術上からなのですよ、この講習会の短いのがいけないのです、丹波杜氏は三ヶ月ないし六ヶ月の講習をうけて出て来るのですから、どうしても対抗出来るわけはありません。今後杜氏になるものはどうしても、人格、学問、技術の三方面が完備していなければ問題になりません。丹波杜氏には学校さえ出て来ていて、若い者がどんどん養成されて出て来るのですが、こちらのは五〇から五五くらいの老人が出て行くのですからとても競争になどなるわけは無いのです、ひとり杜氏が入り込めば、すぐその下に使われる酒屋者全部はその下へとられてしまいますから大変ですよ。

市川　原因がわかっているなら、それを除いてしまわなければ駄目です。そこへ向かって全力を注いでやらなければならないのですね。

小見　三日間と言っても、第一日はどさくさまぎれで半日、第三日目も終了式だヤレ何だと半日、結局、正味講習を受けるのはわずか一〇時間前後しかありません。それじゃ問題になりません。

村松　この点は大いに新聞の力をかりて当局の反省を求

めねばならぬところです。実際、東頸城郡酒屋者の死活問題ですからね。

市川　それに越後の人は、自分の友人とか同郷人を紹介する事が出来ない偏狭な性質を持っているため、どうしても他国の人が団結して来ると敵わないのです。これは非常に損ですね。

村松　全くです。

市川　大震災（関東大震災）の時にも痛切に感じました。熊本県の人達などが県人救護隊を組織して大々的に全市（都内）を回り歩き、県人は容易にこれを発見救護を求める事が出来たのに、新潟県の救護隊は何処を歩いても見えない。あとで聞いてみたら、熊本などよりずっと早く来ていながら、コソコソとやっているため目につかないわけです。

村松　そこで、上越全部の酒男が親和会というものを作り対策を講ずる一方、上越酒男が一丸となって丹波杜氏の向こうを張ろうというわけなのです。

相沢　雪の深い当地方の人々の冬稼ぎには、何んと言っても杜氏が一番で、それが段々評判が悪くなり、進出の途を失うというのは実に大問題で、至急対策を講じなければ、それこそ農村の死活問題だ。これには時世と共に杜氏の頭も進まなければならぬ。それが千篇一律の短期講習くらいじゃ、とても丹波杜氏との対抗はむずかしいわけです。むしろ農学校に杜氏の科目を作って、若いうちから教育を施すくらいにして、杜氏の教育には全力を注ぐようにして欲しいくらいです。是非とも技術員養成は立派な機関と組織が要る。三日や五日の一夜作りの講習じゃ問題になりません。

市川　その農学校に杜氏科を置くというのは、教育上いい問題ですね。

相沢　全くそれが失業問題の原因としたら考えなければなりませんよ。

市川　理髪屋でさえ看板の要る世の中です。マッサージ何んとか、かんとかいいましてね。夏休みにでもかけてやったらどうです。

相沢　とにかく科学的に研究しなければならぬと思います。

渡邊　学校設立は面白いですね、やったらどうです。

村松　杜氏の学校はあります。東頸城でも五、六人卒業しています。下保倉にもいますがね、長期講習は農閑期にやってもらいたいと思うのです。杜氏は今、暇なのですから、今の時季にやったら有効です。子供の時から教え込むのもいいのですね。夏季大学式のものでも結構です。新潟県にはまだ一週間という講習さえありません。県に陳情してみましたが矢張り駄目でした。実際、今のところは名古屋監督局の内部に丹波杜氏が喰い込んで越後杜氏の勢力を占領し、越後杜氏として実に血みどろの闘いだ。

渡邊　この郡に杜氏はどのくらいいますか。

村松　私の村には四、五人だが、全部どのくらいいますかね、四千人くらいでしょうか。

中條　もっといるでしょう。

村松　今しらべてみましょう。

相沢　税務署の差し金で首を切られる杜氏があると言うじゃありませんか。

小見　名古屋税務監督局管内だと、こっちの方も具合がいいでしょうが、出稼ぎ人の多くは東京監督局管内へ出るのだからたまりません。

村松　杜氏の数が判りました、全部で八〇人です。その他、出稼ぎ人が全部で九〇〇名です。

小見　講習に出ない、杜氏でない酒男だけだったら七、

八〇〇人はいるでしょうね。

相沢　関西方面からの酒男は、タメ（試桶＝酒や水を入れて担ぐ桶）担ぎをしているのでも杜氏の資格があるそうです。

渡邊　女工の失業状態はどんなものですか。村松さんの奥さん、婦人会では御調査になりませんか。

村松夫人　サア、無いように聞いておりますけど、私共の方から出稼ぎしている工女は一二〇名くらいですが、失業はほとんどありません。杜氏の方は失業してはならぬと言うので、毎年各地を廻って様子を見て来るのですが、技術が拙劣だの丹波杜氏、奥州杜氏に比して卑しいという非難を聞くが、工女の方は比較的いいようで、技術上未熟なものだけが帰されるようです。

中條　杜氏の意地の汚いということは私も聞きました。

村松　酒屋者の講習には、ぜひ精神教育も必要です。課目の中に加えたいと思います。

丸田　講習は学理のみやらず、実地に携わって生きた講習をするようにしたらどうでしょう。その意味で酒造期に講習会を開くようにしたらどうです。

村松　丹波では農閑期と醸造期にやるそうです。

丸田　医者でも、学理だけ知っていても脈をとる事が出来ない人があるように、学理だけでは問題になりませんからね。酒造期に実施指導する事は是非必要です。

渡辺　この地方で出来ますか。

相沢　その話はしばしば聞きますが駄目です。酒造期に講習するとすれば酒男は出稼ぎが出来ず、唯一の財源を失う事になりますから不可能ですね。何んとかして失業を防止すると共に、東頸城の杜氏の声価発揚に努めなければなりません。

本山　杜氏が多く出れば、その方面へは必ず米が出るようになりますからいいのですがね。

中條　しかし東頸城の杜氏は、柿崎方面すなわち中頸城郡の杜氏よりも評判がいいようですね。柿崎付近の浜の人はどうしても気が荒いというわけです。刈羽の杜氏が現在、当方面の敵で実際中々熱心です。

顯聖寺と松山鏡と

渡辺　郡内の名所旧跡、伝説、物語などについてお話を願いたいと思いますが。

村松　代表的なものとしては、何んと言っても松山鏡でしょう。そのほか直峰城があり顯聖寺、専敬寺なども有名ですね。

市川　それに管領塚、松苧神社などもいいですね。

松村　何んと言っても本郡の代表的なものと言うたら、松山鏡でしょう。大伴家持がここへ流されて来て、たまたまその愛児によって悲劇が生み出されたのですからね。ロンドンの有名な劇場で上演された事がありまして、外国にはあんな孝行の例は無いものだから、興味深く見られたと言いますが、とにかくロンドンにまで紹介されたのですからね、世界的物語ですよ。

市川　百人一首にある「かささぎの渡せる橋におく霜の白きを見れば夜ぞ更けにける」の（家持）歌は、ここで読んだのだと言うのですよ。

秋山　ただ今、名所旧跡のお話が出ましたが、この地方の生んだ偉人武田範之和尚の事についてちょっとお話させていただきたいと存じます。範之和尚は下保倉村、保寧山顯聖寺の先住で一代の傑僧です。和尚は一面憂国の志士で、早くから禅門に身を投じ超凡脱俗の風があり、常に国家社会を案じ、その一挙手一投足ことごとく東亜の経綸に関するもので、日韓併合の大業に偉大な貢献を


禅寺の静けさが漂う顕聖寺

なしたのでございます。

しかし和尚の事蹟が余り世に知られておりませぬ。簡単にお話いたしますと、明治一七年京城で竹添公使の変（宗主国清国から朝鮮の独立を図った甲申政変に深くかかわったため辞任した公使竹添進一郎）がありました時に、和尚は同志と相謀り朝鮮に渡り、陰に陽に朝鮮の革新策を講じていた矢先き日清戦争が起り、続いて日露戦役もあって、長い間の東亜の禍根も掃討され、朝鮮（韓国）統監府が出来るにおよび、和尚も京城に至り一進会を援けて朝鮮の地に仏教を興し、ついに明治四三年日韓併合が成立したのでございますが、これは御稜威のしからしむること当然でございますが、裏面には実に和尚が同志の士の一進会の帷幄に謀をめぐらしたことが、この大業を易々全うすることが出来たという事実があるのです。

和尚は続いて支那問題を大いに研究し、一身を挺してまさに鵬翼を張らんとした時に、たまたま病気となり、ついに半途有爲の大志を抱いて、腰疾の老母を伴いかつ宿痾を療さんとして高田に仮住居を営み、松代温泉に療養などしていたが、咽喉上皮癌という病気は余程ひどいものと見えまして、明治四四年六月二三日、遂に永眠されたのでございます。

和尚は非常に酒が好きで連日徹宵に及ぶもなお辞せず、いわゆる東洋的豪傑だったのですね。後には酒の害の恐るべき事を自覚して、飲酒犯論を草して自戒警他した事もあるが、時すでに遅く和尚はついに酒のため命をとられたとも言い得る程でありました。

村松　今度は松山鏡の話ですが、時代は延暦時代に起こった事なのです。中納言大伴家持という人は武士なのですが詩文には非常に長じていたが戦争は下手だったらしく、東夷征伐に行ったのがうまく行かず、越後に謫せられ松之山中尾に至り、篠原刑部左衛門と名を変えて住んでいた。ところが京子と言う一人娘がいて、その子のお母さんは京子の幼い頃死んでしまったのです。死ぬ時、京子を枕元へよんで「恋しかったらこれを見よ」と言うので、鏡を与えたわけです、鏡の裏には紅水仙が彫ってあったと言います。

その後、家持は後妻をもらったが、継子いじめをやりだし、あいにく、その女は里長某の娘であり、家持が流浪の身で嬶天下だったのですね。家持は京子がいじめられるのを感づいて、少しでも庇護するような模様が見られると、父の威を借りて夫を苦しめるわけです。京子はいつもいじめられてばかりいるものだから、毎日鏡を見ては泣いていた。ところがついに或る日の事、折檻に耐えかねた京子は、庭先にある鏡ヶ池というのに飛び込んでしまったのです。継母はこれを見てハッと良心がよみ

がえり、狂気の如くこれを救わんとしたが、死体はどうしても見つからなかった。

こんな事があってから、たまたま（坂上）田村麻呂将軍が東夷を平定してこの地にやって来て、家持のいるのを大いに喜び、夜を徹して杯をくみ交わしたのです。九月のある月夜だったといいます。京子の死んだ鏡ケ池にある〝鵲の橋〟というのを見て、例の百人一首の「かささぎの…」という歌を詠んで、田村麻呂に示したところ、田村麻呂も大いに同情して、京都に帰り上奏、おゆるしを乞うたわけです。そこでまもなく都へ帰られる事になって、旅立たんとする前の日、家持の妻は突然京子の仏前で黒髪を断ち、この地に止まって京子の冥福を祈らせてくれと頼み、鏡ヶ池の辺に庵を建て、家持からもらった形見の観世音菩薩を祀り、京子母娘のために毎日供養を怠らなかったというのですが、この観世音菩薩が僧行基の作といわれ、今なお残っています。この継母がようやく発心したというのは、京子が池へ飛び込んだ翌日、京子が黒牛に乗って昇天したのを見たからだという説もあります。


松山鏡の舞台「鏡ケ池」

そして鏡の裏についていた紅水仙が、池中にある浮島に毎年咲いていたというのですが、二〇年前、ある村の酔っぱらいが摘み取って枯らしてしまったといわれています。筋はあらましこんなところです。

中條　鏡ヶ池はもうほとんど田になっていますね。

松苧・直峰・杉壺・小黒

村松　それから青柳の池の杢田（もくた）主膳の話があります。

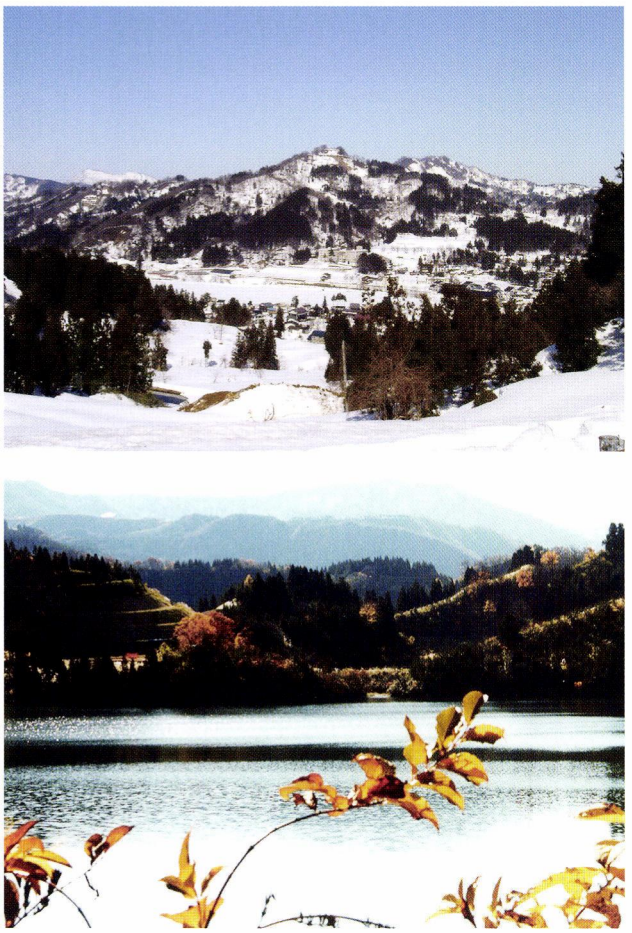
市川　松苧神社の話もあります。松苧神社に祀ってあるのは奴奈川姫命で、伝説によると大国主命が葦の舟に乗って通って来られたと言うのですけれど、いわゆる越の国というのは、越後という意味でなく海を越した国、すなわち朝鮮じゃないかともいわれています。伝説には糸魚川から一晩のうちに行ったり来たりされたと言うていますがね…。

丸田　大国主命がいくら通って来られても奴奈川姫命が戸を開けてくれない。それでも根気よく通った末、ある時、歌を詠まれたのだそうです。すると家にいる奴奈川姫命からも返歌があって、ここに意気投合というわけになったそうで、「古事記」にも出ています。その後、五智の居多に御同棲になり、お二人の間に諏訪神がお生まれになったのです。で、居多神社はもっともっと社格が上がらなければならないと思っています。

村松　「古事記」には、まだこの地方の事で素晴らしい、百パーセントエロ物語りが載っていますが、一寸ここではお話しにくいですな…。

そこで続いて青柳池の杢田主膳正の話に移りますが、これは今でも旱天の時、安塚の人が青柳の杢田さんに雨乞いをすると、必ず雨が降るといわれている。そのもと

になる話です。頸城平野の南方に京ヶ岳（清里区）と言うのがあって、そこに坊ヶ池（青柳の池）があり、住んでいた大蛇龍姫が直峰城（安塚区）主杢田主膳に思い込んで、主膳の行く所に現れ、思いのたけをかき口説いた。しかも主膳は妻子があったんで、龍姫の思いはどうしても叶わなかった。するとある年、直峰城下には大旱害が起ったので、主膳は武の宮（坊金＝安塚区）に祈願をこめたところ、二十一日満願の日に「青柳の池に雨乞いせよ」との御託宣があったので、急いで行く途中、龍姫が現れ「今の神のお告げは私が言ったのだ、私の思いをかなえてくれるなら必ず雨を降らす」と言ったので、主膳はここに身を犠牲にして民草の苦難を救うべく、翌日坊ヶ池に至り、池中に身を投じて龍姫と結婚したので、たちまち同地方には数日間雨が降ったが、これは、わが仁慈の君が一身を犠牲にした賜と聞いて、皆、熱涙に咽んだという物語なのです。爾来、安塚と坊ヶ池とは親戚以上の親しみを増し、いかに炎天続きでも、安塚から雨乞いに行けば必ず雨が降ると言って、今でも主膳正の仁徳をたたえているわけなのです。



写真上　戦国の城だけではなく物語の舞台にもなった直峰城
写真下　青龍伝説の坊が池

中條　それで主膳正が片目であったため、それ以来、青柳池の魚はみな片目になったという話です。その主膳正のいた所がすなわち直峰城なのです。

渡辺　杢太さんと高田の善導寺とはどんな関係がありますか。

小見　善導寺の前の井戸と青柳の池が続いているという。

村松　それから日光寺の話、これも有名です。大宝二年の春、行基菩薩がここへ来て、この寺の樹の下に宿った時、林中から煙が立ち上がるので掘ったところ、一寸八分（約五・五㎝）の薬師如来が出てきた。そこで行基はさらに日光・月光二大師（菩薩）・金剛力士を彫刻し安置し、後に弘法大師が来て日光寺と名づけ杉壺と称し、

堂内の大日如来を作って安置したというのですが、上杉謙信公は大いに帰依され、川中島の戦には甲の中へ守護神として安置して出陣したという由緒あるお寺です。

村松　東頸城郡における五百年、六百年前後の伝説は、みな直峰城を中心としています。顯聖寺に今も残っている火車落としの袈裟数珠に関する伝説、すなわち同寺の四世・長夫是鏡和尚が直峰城主の奥方の葬式に行っていた時、突如黒雲に乗って奥方の棺桶を奪い去ろうとした夜叉に和尚が数珠をぶつけたところ、夜叉はたちまち棺を放って、どこかへ逃げ去った（火車＝妖怪＝夜叉、「北越雪譜」には雲洞庵の和尚の伝説とされている）というのですが、これも直峰城を中心としています。



小黒専教寺　明治末から大正初めにかけて発行された絵はがき
まさに座談会の出席者が見ている貴重な一枚である
（柏崎市立図書館所蔵「小竹コレクション絵葉書」）

それからもう一つ、円重寺の夜光太子の伝説がある。これは祖師上人の作で、直峰城主樋口伊与守の守り本尊だったので、大永三年の落城の際、虫河（川）村の桂の大樹の洞の中にこれを納めた。しかも大戦中で誰も知る者無かったが、寛永二年、村人が発見。保倉村大明神の社殿に納めて置いたところ、その神職の妻が祈願あって、この像の胸に釘を打ったところ、たちまち狂女となり、そのとき太子は「我は親鸞聖人の彫刻した上宮太子の像だ」といわれたので、円重寺へ送られて来たものだそうです。俗に子守太子ともいい、桂の木の洞の中にあった時分、付近の子供がそれのかたわらへ遊びに行くと、太子が出て来て木の梢へ伝って、子供等と遊び戯れたといわれているのです。（注・時代は原文のままとした）

渡辺　名所は何かお話願うものがございませんか。

村松　そうですね、名所というより名刹として是非お話しなければならないのは、ここに岩崎夫人もお出でですが、小黒村専教寺の事です、檀徒二二〇〇戸といわれ、大谷大学の橋川教授が研究の結果、親鸞聖人と直接関係のあるお寺と発表して大問題となっているお寺です。なにぶん、たびたび火事に遭い古記録を失ってしまい、しっかりした事はわかりませんが、由緒あるお寺な事は確実です。とにかく本堂が十八間四方あり、境内地が二千三百坪からあったのですからね。奥さん、何かお話になったらいかがです。

岩崎　私の所は昔から五度も火事があり、書き物が焼けてしまって判らなくなっている時代があるので困りま

す。開基は眞雅僧正（真言宗の寺院だった）で三五代の間は不明で、三六代の人から明瞭になっております。しかし寺の古いものを調べてみましたところ、袈裟が出てきましたが、これは親鸞聖人直々のものでなければ着られない袈裟なのだそうでございます。

中條　とにかく大谷家から嫁に来ているほどのお寺なのですからね。

岩崎　厳如上人御弟、深量院第二女富貴姫というお方が安政元年、第六一代の釋誠祐と結婚しておられます。

村松　昔は上越一のお寺だったのですな。高田の別院より二間四方も大きく、旧寺領地が二〇町四方もあったと古証書にあります。（注・本堂および寺域の数字は原文のままとした）

渡辺　特産、名物についてはいかがでございますか。

村松　もぐさが第一番でしょう。

相沢　松之山の越後縮があります。年に二万七、八〇〇〇円も出ます。

村松　もぐさはとにかく、楮（こうぞ）は紙の原料となり、当郡のように旱魃地の多い所にはとてもいいもので、農家副業には絶好です。産額も多きいものです。

渡辺　食べ物についてはどうですか。

市川　山平のつるし柿、串柿が有名で。菓子の原料に砂糖の代りにも使われる由です。

相沢　名物として誇り得るものはあまり無いようですね。

渡辺　郷土芸術について何か面白いものがありませんか。

村松　神楽でしょう。賑やかないいものです。

市川　全郡的にやりますね。

相沢　盆踊りとしては、ヤシャゴシャ、ヨイヤナ踊り、おけさなどあります。

中條　越後おけさですね。

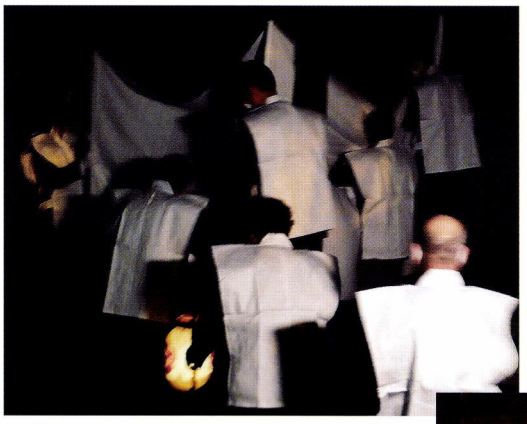
市川　追分ぶしは純粋なのが東頸城に残っています。馬で耕作しながら唄われたやつです。

村松　東頸城郡の郷土芸術は生産と一致しなければならない。それが段々離れていくのは残念です。土と離れたら郷土芸術とは言えないと思います。

村松　私共の村では、青年会女子青年会で農民劇をやっていますが、古い郷土芸術を残すには新しい時代心理を吹き込んでいくようにしなければならないと思います。

渡辺　いろいろありがとうございました。この辺で閉会いたします。

遷座祭





八坂神社の屋根の修復が無事終わり、三柱の神々がもとの社に還られた。

越後府中と春日山城

―名立から考えた府中の都市空間―

小島幸雄

◆名立から考えるきっかけ

本誌四五・四六号で私は名立町史に載る一枚の写真から、名立という土地がその範囲を変化させていたのではないかということを考察した。そのことを考えたのは、春日山城とされる範囲を考えたことに起因している。昭和五〇年に上越市に奉職して以来、春日山城の範囲を考えてきた。もちろん常識的に考えた春日山城は、監物堀と呼ばれる大豆の西にある総構から牛池新田くらいまでを範囲とするのであろうが、私は越後府中と一体の都市機能として春日山城を考え、それがどこまで及んでいるのかを考えてきた。



春日山城から越後府中と米山を望む

読者の皆さんもご承知のごとく、越後府中は越後守護の館があり、湊は日本海航路の重要拠点として「廻船式目」（室町時代に成立）に三津七湊の一つに挙げられ、さらには、都から日本海側を北に延びる北陸道と信州からの東山道の支路が交わる日本海と内陸を結ぶ陸上交通の要衝でもあった。

私が名立に足繁く通い空間を直視して考えたのは、今マイクロウエーブが建つ付近から望む日本海の眺望であり、ここに立って初めて府中の空間の一部であることを実感したことがきっかけであった。

◆正善寺川の流路変更から始まった

なぜ都市空間を考えるに至ったかを記しておこう。

昭和五九年、春日山町三丁目（現在の町名）で北陸自動車道の発掘調査が行われていた。小峰橋の北側で行われていた発掘調査現場で目にしたのは、縄文時代前期、約五千年前の竪穴住居の跡であった。上越地方の縄文時代の遺跡は平野の周囲の丘陵にある、これが常識であっ

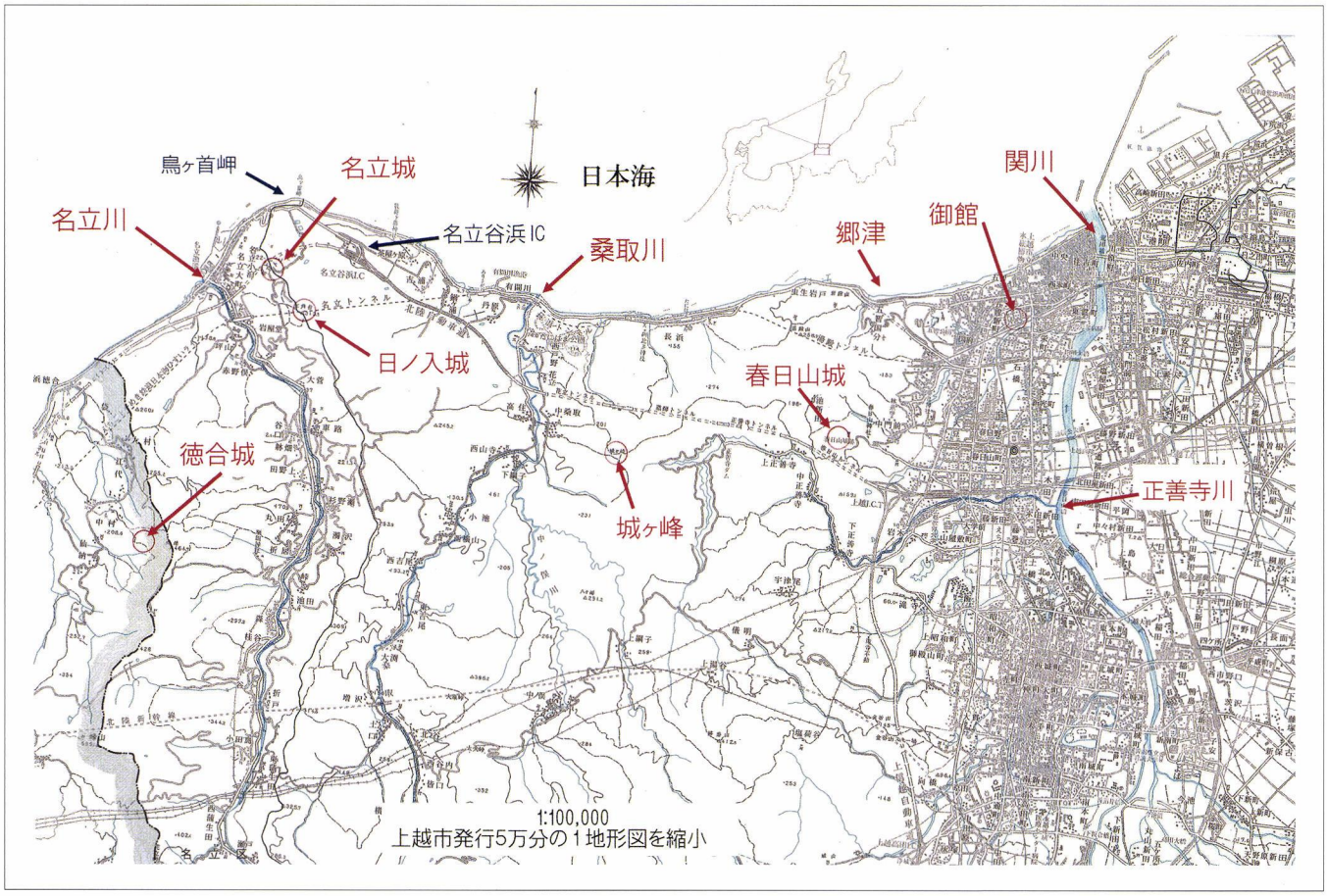


図１

たことからすれば、極めて珍しい遺跡の発見であった。なんでこんな低い沖積地に縄文時代の遺跡があるのだろう。そんな疑問を持ったことを今も鮮明に記憶している。

その時に発掘調査された遺跡は八反田遺跡といい、加賀街道に架かる北陸自動車道ボックスカルバートの東側一帯に広がっている遺跡で、調査の結果平山段丘が高度を下げて沖積地の下に埋没し、隠れていた段丘で遺跡が発見されたことが分かった。当時の常識では平山段丘が正善寺川の北側にまで伸びているなどということは考えも及ばなかった。しかし、土器だけでなく竪穴住居（四棟調査された）が見つかったということは、そこに縄文人が居を構えて活動していたことを示していて、このことが私の春日山城周辺の空間利用を修正するきっかけとなった。

当時から春日山城の範囲はどこまでか、さらには越後府中の範囲がどこまでだったかを考えていたが、同時に両者を一体のものとしても見ていた。八反田遺跡の発掘と時を同じくして一枚の写真を見る機会があった。春日山付近の航空写真で、岩木から大豆方面に北流する河川の跡が確認できるものであった。これで全てが解決し、上教大の敷地にある段丘を形成したのも、そ

して監物堀の南側の一部が斜行するのも正善寺川の旧流路によるものであった。現在目にする正善寺川が、人工開削であることが確認できたのであった。少し外れるが、御館の乱で越後に出陣した武田勝頼が陣を張ったのは木田とされる。今の木田は正善寺川の北になり勝頼は川を渡って着陣したことになるが、木田新田だとすれば川を渡らずに陣を張ったことになり、府中に進入していなかったことになる。景勝と景虎両陣営がにらみ合う府中に進入したとは考えにくく、川を渡らずに陣を張ったと考えるべきであろう。

◆正善寺川と桑取川そして鳥が首岬（図―1）

私は正善寺川が人工開削によって流路を変えたことが理解できた時、府中と春日山城の範囲を日本海・関川・正善寺川・上正善寺から郷津を結ぶ尾根で囲まれた概ね四キロ四方と考えた。その後、城ケ峰の整備活動にかかわる機会に恵まれ、何度か訪れていたころからおぼろげながら西側の結界は正善寺川と綱子川を結び桑取川で完結するのではないかと想定してみた。

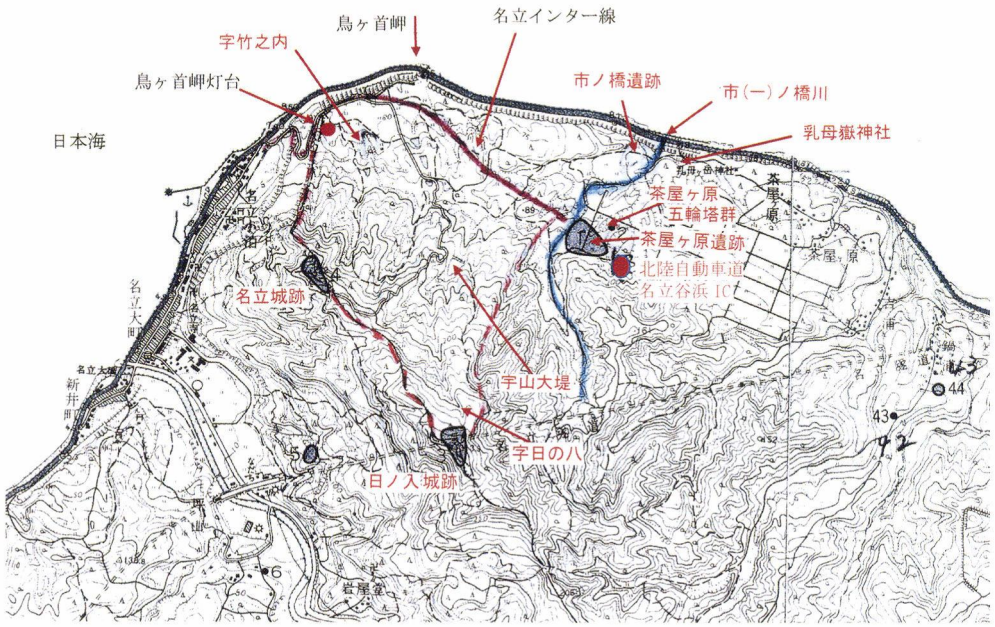
しかし、春日山城から西側には徳合城まで城郭らしい城郭はなく、いずれも砦といわれるようなものや狼煙台のような小規模な施設とされてきた。平成三年に調査した市ノ橋（一ノ橋であろう）遺跡の調査では古代や中世の出土品があり、当時の北陸道の施設であることが想起され、そこから望む日本海は海上交通の要衝とするに十分な景観であった。



郷津湾の奥に見える鳥ヶ首



鳥ヶ首からは石動山も確認できる



本稿の概念図
赤い線と鎖線囲まれたくいから海岸にかけての区域に古代の「名立駅」があったか？
「新潟県遺跡地図」（一九八〇）をもとにした図

次に日本海に目を転じよう。二四ページの図―1の上部に、鳥が首岬と佐渡・能登の位置関係を示した。佐渡の宿根木と能登の珠洲、そして鳥が首岬を結ぶと二等辺三角形を逆さにしたような図形となるのだ。鳥が首岬に立つと、まさにこの景観が目に入るのだ。このような景観を目にするたびに、府中（国府）の湊である郷津に無くてはならない空間だと思うようになっていた。鳥が首岬までが府中なのだと考えるようになった。

◆名立城と日の入城を通っていた市町村界

本誌四六号二七ページから二八ページにかけて概要を記したが、これらの二城郭はいずれも市町村界が通っていた。もちろん今は同じ上越市の一部であるから市町村界ではないが、図―1でも黒い実線が赤丸を通っているようにこの峰を使って支配地の分断が行われたことが想起されたのだ。簡潔に言えば支配地の府中側になる尾根の東を割いて春日山城の直轄支配とし、西側の急崖から名立の谷を徳合城の支配としたと考えたのだった。

名立はもともと長尾景直なる者の支配地であったとされているが、今一つはっきりしないようである。わたしは古文書が専門ではないので書物に拠る外はないが、景直は御館の乱で景虎側についたことで敗者となり、支配地の没収と分割が行われたのであろう。その結果、城の分断が行われ、明治に至って市町村界が通ることになったと考えられた。しかし、長尾という名を見ればわかるように乱以前は一族を配置していたことになり、府中の重要拠点であったことは想像に難くない。

ところで、府中のことを追いかけていた名立であるが、もともと越後国府がおかれていたと考えられている上越市の職員であったので国府に関連する遺跡のことを忘れ

たことはない。もちろんそれは古代名立駅の所在も含めてであった。名立に何度も通ううちに、宇山の雑木林が気になるようになっていた。集落が途絶えても、もともと人が住んでいたところは杉林が一定の範囲で残っていることが多い、というよりもそれが常識である。それなのに日の入城の尾根から広がる雑木林はとても広大で何とも興味をひかれた。

宇山は古くから特別な意味を持った地域だと思えたのだった。そして、緩傾斜の広い斜面は古代の駅家＝名立駅に比定できるのではないかと私を導いたのだ。市ノ橋遺跡から三〇年近くが経過していた。

◆今後に向けて

四六号の末尾にも記したように、「宇山」と「竹之内」の考察は未だ結論を得るに至っていない。「竹之内」の現地は案内していただき、大まかには位置関係を理解できてはいるが、「日の入城」と字「日の八」の関係など、多くの課題が残されたままなのだ。

今年のコロナ禍は私の調査にも少なからず影響を及ぼし、現地調査だけでなく資料を所蔵されておられる方々への訪問もはばかられて、我慢の一年を過ごしてきた。越後府中と春日山城の都市空間は私の知の欲望の最たるものであり、コロナの状況を見ながらもう少し名立を歩いてみたいと考えている。

国府―春日山―府中―直江津へ、というタイトルが示すように海陸の交通の要衝である上越地域の歴史は奥深いものがある。このことを少しでも読者にお伝えするために、いろんな時代、様々な切り口を駆使して考えていきたい。

（上越市専門学芸員）

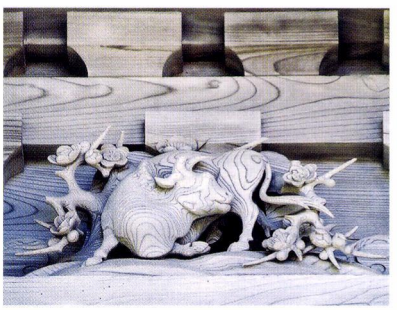


令和３年（2021）辛丑

五智国分寺三重塔（新潟県指定有形文化財）

安政３年（1856）着工（手斧始）、慶応１年（1865）上棟されたが、今も未完のまま。全国で最も新しく建て始められた三重塔と言われている。

一層に十二支、２層には二十四孝のうち十二孝の彫刻が掲げられ、十二支は年賀状に使う人も多い。



歴史は「今日（きょう）」への手紙

残しておくべきもの
伝えておくべきもの

絵はがきから まちの近代を 読み解く

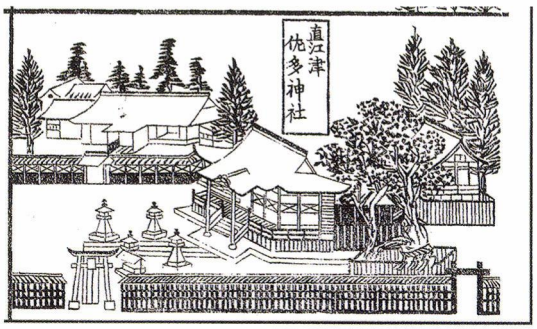
八坂神社は、明治一六年の神社明細帳には「中頸城郡砂山村字土武利橋　諏訪神社」として、元禄二年（一六八八）、現在のように三社が合祀されたとある。（春祭が諏訪社・秋祭が日吉社・祇園祭が八坂神社の祭り）

社殿は享保六年（一七二一）に建立され、安政二年（一八五五）に出版された「東講商人鑑」という旅のガイドブックの図版を見ると、北側にある鳥居をくぐって境内に入っている。また、明治一一年の明治天皇北陸巡幸の際も、ご一行は高田から「今町道」を安国寺区に入り、現在の飯酒盃（いさはい）医院の角を右折し、八坂神社（掲額は「諏訪神社」）の鳥居を右に見て左折し、直江津のまちへ向かっている。ちなみに、七月二八日の宵、祇園の神輿が御幸町の若衆に担がれて還御されることでも北側の鳥居の先が古来の参道であったことがわかる。

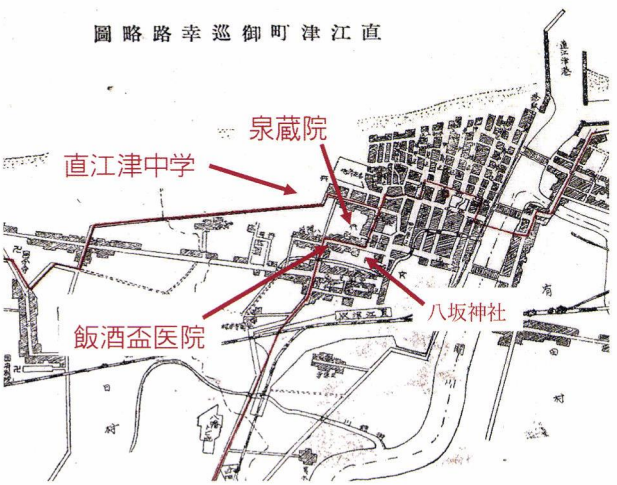
右のことを踏まえ、二枚の絵はがきから八坂神社境内の変化を探ってみよう。

①は「直江津　三柱神社」（上越協賛会発行）という表題が付いている。新潟県第四回畜牛馬匹共進会を記念した四枚組の絵はがきの一枚。まったく同じ写真で「諏訪神社」という表記もある。両方とも大正時代の発行だが、「諏訪神社」の方が古い呼称だと思われる。

写真では手水舎の向きが違っている。手水石は明治四三年四月に大高田町金子安平・直江津町金子倉三郎によって寄進されたもの。世話人は小出又作。これは敷石からも想像できるが、北参道から入って手水を使い右折して参拝した名残であろう。昭和六一年の社殿改修に合



「東講商人鑑」直江津今町の部分
境内の景観は変わらないが、延喜式内社である「佐多神社」とあるのは興味深い



明治天皇北陸巡幸図部分
直江津農商学校「校友会誌」より

わせて現在の向きになった。

右手の大きな灯篭は、明治二二年に直江津盛塩商会によって寄進された一対で、手水舎の建立にあたって一本は南側へ移された。また、手水舎の後ろにある神馬舎（建立年代不明）がない。北参道の鳥居は、明治四五年四月に産子中によって建立されている。

②は駅前通りから入る参道の絵はがき。「直江津八王子三柱神社鳥居前」という表題が付いている。鳥居の脇に高々と幟が立ち桜並木には提灯も見え、両脇は田んぼで参道に敷石がない。おそらく明治四一年六月に鳥居が建立された記念に配られたものであろう。鳥居は直江津生魚中によって建立され、石工は尾道の寄居弥七、海路運ばれてきた。

おもしろいことに、鳥居の前にあって台座に「筑前」と刻まれた古い狛犬が見当たらない。これは①の絵はがきをよく見ると、社殿と安政五年（一八五八）勝島左五左衛門寄進の灯篭の間に辛うじて見える狛犬がそれであろう。時期は分からないが移動したものと考えられる。

駅前通りの参道は、直江津駅が明治三一年に現在地に移転し、駅前通りが開かれた後に開削された。

③は、「郷社八阪神社」と彫られた堂々たる御影石の石塔の除幕式の写真である。昭和三年一一月、郷社（昭和二〇年以前の国による神社の格付け）に列し、「八坂神社」と称するようになったのを記念して室安五郎に





上　①の絵はがき「直江津町三柱神社」
下　②の絵はがき「直江津八王子三柱神社鳥居」



①の絵はがきと同じ写真だが「直江津町諏訪神社」と表記されている



③「郷社八坂神社」碑の除幕式

よって建立された。この年は昭和天皇の「即位の御大典」の年であり、全国的に盛大に祝賀や記念碑が建立されている。

神官が座る後方の黒い石柱は「戦捷紀念燈」と刻まれ、日露戦争戦捷記念として明治三九年一月、直江津生魚中が建立。記念写真では幕の陰で見えないが、「八坂・諏訪・日吉　三柱社」と自然石に彫られた碑がある。明治三七年三月、荻野権次郎が寄進したものである。

これらの碑の建立時期や理由から境内や参道の整備されて行く姿が想像できる。

参道の御影石は、ご大典に祝意を表して敷かれたものと推測できる。（③の写真を見ると敷石の工事中だと推測できる）このように立派な御影石の長い参道はあまり見かけないが、当時の直江津の経済力を反映したものといえよう。

また、祇園祭のメイン行事になった感がある米俵を担い参道を走り抜ける「御饌米奉納（納め）」が盛大に行われるようになったのは、この年からだとも言われている。

（北越出版・佐藤）



神輿が御幸町の若衆の手によって鳥居をくぐる

盛大にお饌米奉納が行われる



発刊のことば

直江津は、越後発祥の地という歴史を振り返るまでもなく、日本各地から山海の物産が集まり、四方に送り出す商いの場でした。そこに行き交う人びとが織りなす人間模様は、地域に文化を育て、数々の物語も生んできました。

これは、経済の拠って立つ場が文化を育む地でもあり、それらは別個のものではなく、根を同じくする一本の樹であることを実感させてくれるものです。

本誌は、経済であれ文化であれ、今からその種を播き、苗を育てようとする人たちのために、直江津を掘り起こし、耕しておこうというものです。そして、後々もう一度地域を見直そうというとき、その原点になるような深く地域に根ざしたものでありたいと考えています。

本誌に敢えて限定された地域名を付したのは、それが排他的なものでないことは言うまでもありませんが、社会が指標を失って混迷する今日、自らが立つ、足元の「地べた」を検証し直すことによってのみ、経済、文化、環境などあらゆるものへの問題提起、提言、行動が可能になると考えたからです。

本誌が広く共感を得て、上越（かみえちご）後全体の地域振興に寄与できることを念願する次第です。

平成十三年三月

発刊当初の直江津信用金庫は平成十六年一月高田信用金庫と合併、上越信用金庫となった。

あとがき

今年は、年度初めから新型コロナウイルスの感染が日本中の生活を変えてしまう一年でありました。

一時落ち着いた感もありましたが、年末にかけてまた、感染拡大している状況にあります。今後もまだまだ終息が窺えないなか、しばらくはコロナ禍の下で生活していくしかありません。コロナと戦いコロナに負けない、一人ひとり今できることを実行しましょう。

（事務局）

目　次

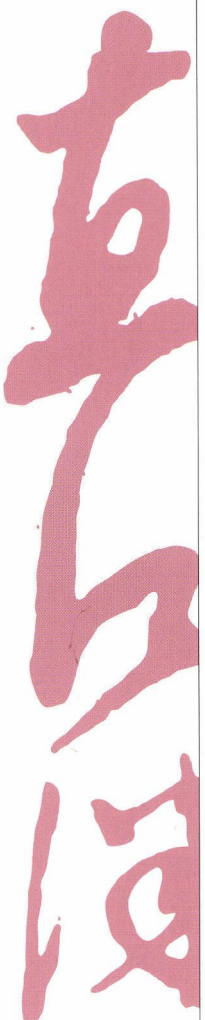
特集　ロングインタビュー
無印良品が考えるエリアリノベーションに
巻き込まれるか、巻き込むか、　4
座談会　おらが在所　12
頸城の空間を駆ける 国府―春日山―府中―直江津へ ④
越後府中と春日山城
―名立から考えた府中の都市空間―
上越市専門学芸員　小島幸雄　23
歴史は「今日」への手紙
絵はがきからまちの近代を読み解く　28
巻頭エッセイ・私の直江津
すきな路すきな時　ひぐちキミヨ　2

「直江の津」
第一八巻一号　通巻四七号
発行日／令和三年一月一日
発行者／上越なおえつ信金倶楽部
発行責任者／小林正夫
問合せ先／上越信用金庫営業統括部
電話（代）〇二五（五四三）三一八四
上越市中央一―十一―一
制作協力・北越出版

2021・1号

直江の津

発行／令和三年一月一日■発行者／上越なおえつ信金倶楽部■制作協力／㈲北越出版■表紙基本構成／小谷充■表紙構成／ムロハシデザイン



須布価格／五〇〇円（本体）